まてでゃまんま

むかしむかしあるところにじっちゃがおってな。ある日じっちゃは山へ柴刈りに行き、おにぎりを食べようとしたら、手がすべって落としてしまったと。「まててやまんま、まててやまんま」と追っかけたがゴロゴロころがって、やっと麓の地蔵さんの前で止まった。「さあ食うべ。あっ、そうだ。地蔵様にもけるべ」とおにぎりの土のついた外側は自分で食べ、中のきれいなところを上げると、お地蔵さんは「ありがとう、じっちゃ晩げここに鬼が集るから、わたしが合図したら、箕(みっ)こたたいて鶏の鳴くまねせ」。やがて日が暮れると鬼たちがやってきてバクチを始めた。「じっちゃ、じっちゃ」と地蔵さんが合い図をするので、箕こをぱたぱた叩いて「コケコッコー」と言うと「おや一番鳥が鳴いたぞ、早くやるべ」。しばらくしてから二番鳥、三番鳥と繰り返すと「三番鳥が鳴いたぞ。このままにしてまたあしたやるべ」といって鬼たちはいなくなった。

「さあ、じっちゃ、この銭こみなもってゆけ」、とお地蔵さんにいわれたじっちゃは、みんなもらって家へ帰ったと。この話をきいた隣の欲張りじっちゃ、次の日山へ行って、おにぎりを足でけとばしながらお地蔵さんの前までころがしたと。そして土のついたおにぎりの外側を地蔵さんにあげて、中のきれいなところは自分で食べ夜になるのを待った。

やがて鬼たちがやってくると、欲張りじっちゃは早くお金が欲しいので、パタパタ、「コケコッコー」とやった。「おや夕べの銭こもないし、人のにおいがするぞ」。鬼たちにみつかってしまった欲張りじっちゃは、寄ってたかって、なぐられ、おいおい泣きながら家に帰ったとさ。

トッピンパラリのプー